

# 衛生研究所跡地について

## 1 土地の概要

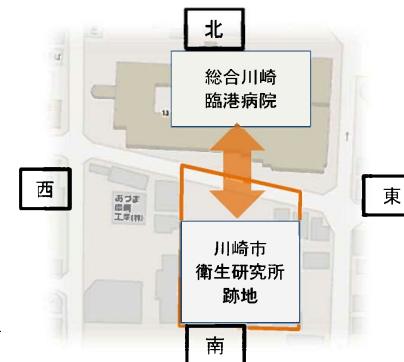
- 所在地 川崎区大島5丁目13番5
- 地積 1,650.61m<sup>2</sup>
- 用途地域 第二種住居地域

## 2 これまでの経緯

- H21.8 殿町3丁目における中核施設のひとつとして(仮称)産学公民連携研究センター内に(仮称)健康安全研究センターとして機能移転することを決定
- H24.6.15 医療法人社団和光会から「川崎市衛生研究所跡地活用による『全ての人が健康で安心して暮らすことができる川崎市のまちづくりへのご提案』」が提出される。
- H24.10 跡地活用の方向性として、医療法人社団和光会に30年間の事業用定期借地権設定契約により貸付けることを決定
- H24.11.16 「衛生研究所跡地活用に向けた覚書」を締結
- H24.11.21 健康福祉委員会に「衛生研究所の跡地活用について」報告
- H25.2.28 卫生研究所閉所(健康安全研究所として殿町に移転)
- H25.3.28 不動産評価委員会にて当該土地の評価額を月額128万円に決定
- H25.9.26 「衛生研究所跡地事業用定期借地権設定契約に向けた覚書」を締結
- H25.9.30 健康福祉委員会に「衛生研究所跡地事業用定期借地権設定契約に向けた覚書の締結について」報告
- H26.10.8 「土地一時使用賃貸借契約」締結

## 3 土地一時使用賃貸借契約の概要

- 契約締結日 平成26年10月8日
- 契約期間 平成26年10月8日から事業用定期借地権設定契約に係る賃貸借期間の開始日の前日まで
- 用途指定 衛生研究所施設の解体及び病院施設建設
- 貸料 月額1,280,000円  
(ただし、平成26年12月までの施設解体工事期間中は640,000円に減額)
- 費用負担
  - ・衛生研究所施設の解体工事及び病院施設建設工事は和光会の負担
  - ・土壤汚染の調査及び措置は和光会の負担
  - ・アスベストを含有する実験台の撤去費用は川崎市の負担

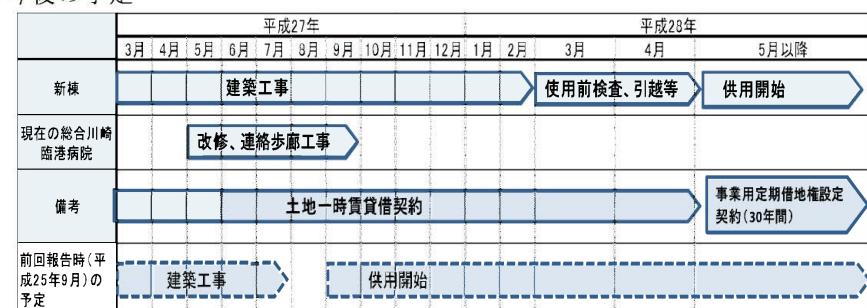


## 4 提案書の新旧比較

	平成24年6月15日 提案書	平成27年2月12日 新提案書での変更点
救急	<ul style="list-style-type: none"> <li>・救急部門の拡大</li> <li>・トリアージスペースの整備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者施設からの受入を積極的に行う</li> <li>・救急受入を拡大</li> </ul>
予防回復	・リハビリテーションの集約・充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア病床の設置</li> <li>・回復期リハビリテーション病床の充実</li> </ul>
災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耐震性の高い新棟を整備</li> <li>・災害時の患者受入れを可能にするため、外来面積を拡充</li> <li>・避難所・災害医療チームとの適切な連携</li> </ul>	
産婦人科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分娩室や専用病床の増加</li> <li>・年間600件程度の分娩</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産科専用病床を10床から16床に増床</li> <li>・分娩室を2室配置</li> <li>・授乳サロン、ディコーナーなど患者アメニティの充実</li> </ul>
小児	<ul style="list-style-type: none"> <li>・輪番制小児救急医療への取組み</li> <li>・てんかん医療を提供</li> <li>・外来部門を拡充し、感染対策などを強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染対策専用の診療室・待合室を設置</li> <li>・アレルギー診療などを充実</li> <li>・新生児などの定期健診事業を実施</li> <li>・各種予防接種を充実</li> <li>・南部地域療育センターとの連携</li> <li>・児童生徒結核健康診断精密検査の実施</li> </ul>
高齢者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅医療の強化</li> <li>・個室や家族のスペースの確保によるターミナルケアの取組み</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅療養患者の緊急入院に対応</li> <li>・総合川崎臨港病院とじのまち病院を統合して慢性期病床と急性期病床を一体化することで、慢性期の患者が急変した際にも手厚い医療を施す</li> </ul>
病床数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合川崎臨港病院152床</li> <li>・じのまち病院54床</li> <li>・合計206床</li> </ul>	・統合後の総合川崎臨港病院199床

※川崎南部二次保健医療圏(川崎・幸・中原区)の既存病床数は、平成26年3月31日現在基準病床数を805床とされています。

## 5 今後の予定



川崎市衛生研究所跡地の活用による  
すべての人が健康で安心して暮らすことができる  
川崎市のまちづくりへの新たなご提案

2015年2月12日

医療法人社団 和光会  
理事長 渡邊 嘉久

## 1 はじめに

平成24年6月、川崎市衛生研究所跡地の活用について、「川崎市衛生研究所跡地の活用によるすべての人が健康で安心して暮らすことができる川崎市のまちづくりへのご提案」を提出させていただきました。その提案は、川崎市に受け入れられ、以来、提案の実現に向け取り組んでまいりました。

当院は、戦後間もない昭和26年の開業以来、一貫して地域に根差した病院を目指していました。開業当時の川崎市は公害問題を抱えており、戦後間もないことから十分な医療が提供できず、「地域住民の方の健康を守りたい」という強い想いから当院はスタートし、時代と生活環境の変化による問題に向き合ってきました。

現在、川崎市は産業だけでなく、文化、音楽の街として川崎らしい地域づくりが行われています。私共も、これからも地域に根付いた病院として、暮らしやすい地域づくりに貢献したいと考えております。

この度、提出させていただく新たな提案は、以前提案させていただいた産婦人科、小児、災害、救急、予防回復、高齢者医療の内容を踏襲しつつ、これまでの環境の変化に合わせたものになっております。川崎市衛生研究所跡地の活用について、新たな提案をお受け頂けるようご高配の程お願い申し上げます。

## 2 新たな提案を提出するに至った環境の変化

川崎市でも高齢化率（65歳以上の人口が総人口に占める割合）が約19%（平成26年10月1日現在）と、少子高齢化が進んでおり、以前より高齢者施策に力を入れることの必要性を認識しております。そのため、先の提案においても在宅医療の強化やターミナルケアの取組を提案致しました。

国において、効率的で質の高い医療提供体制を目指し、平成25年8月に社会保障制度改革国民会議報告書がまとめられております。この報告書では、在宅医療・在宅介護の推進、地域包括ケアシステムづくりの構築に向けた医療と介護の連携、生活支援・介護予防の基盤整備などが今後検討すべき事項として示され、ここに示された考え方は、平成26年診療報酬改定に反映され、平成26年6月に成立した医療・介護総合確保推進法（地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律）により具体化されました。また、川崎市においても現在、「（仮称）川崎市地域包括ケアシステム推進ビジョンづくり」への取組をすすめていると伺っております。

私ども和光会といたしましても、中核となる総合川崎臨港病院は「ともに生きよう100年病院」をブランドコンセプトに地域の皆様との結びつきをより一層強化してゆく考えより、国及び市の施策に合わせ、平成26年10月より亜急性病床12床を地域包

括ケア病床に転換しました。

そして、予防、医療、介護、生活支援サービスなどの連携を図り、特に高齢者の方が可能な限り住み慣れた地域で日常生活が送れるよう、医療、介護、予防、住まい、生活支援が、地域において切れ目なく一体的に提供される体制としての「地域包括ケアシステム」の構築がより重要であると考えています。まずは自分自身の健康状態を知り未然に防ぐこと、症状が現れた場合は適切な治療、その後の自宅への復帰に向けたサポートといった医療サービスの提供が必要と考えます。

### 3 当初提案事項に対する取組状況

#### 産婦人科

当初の提案として、分娩室・専用病床の増加、個室化推進、業務環境改善、分娩件数600件などをあげています。

現在の取組としては、分娩件数の増加に対応する為の助産師への教育・研修の実施を行っています。

#### 小児科

当初の提案として、輪番制小児救急への取組、てんかん医療の提供、感染対策の強化などをあげています。

現在の取組としては、

- ・てんかん医療の提供（平成25年度より）
- ・アレルギー医療の提供（平成25年度より）

さらに、

- ・川崎市社会福祉事業団よりの依頼を受け、南部地域療育センター診療所受診児童の医学的検査（主に脳波検査）を実施（平成26年度より）
- ・川崎市教育委員会よりの依頼を受け、「川崎市立学校児童生徒結核健康診断精密検査」を実施（平成26年度より）
- ・川崎市が実施している小児の健診事業を引き続き積極的に実施（平成26年度も継続）

## **災害**

当初の提案として、耐震性の強化、外来面積拡充による災害時の患者受入、災害医療チームとの連携をあげています。

現在の取組としては、拝借する土地に建設する建物は現在の基準を満足する耐震構造の建築物とし、災害時に患者受入が出来るような配置を検討しております。

また、緊急時の対応に必要な院内の電源を確保する非常用発電機の燃料を、近隣提携業者から優先的に受けられるよう依頼交渉をしています。

## **救急**

当初の提案として、救急部門の拡大、トリアージスペースの整備、感染症対策の強化、輪番制救急医療への取組充実などをあげています。

現在の取組としては、

- ・公益社団法人川崎市病院協会が実施している、「休日第二次応需病院当番」、「夜間救急病院群輪番制第二次応需病院当番」事業に会員病院として継続して参加協力をしています。
- ・老人施設からの要請に答えるよう、老人施設から搬送される救急外来には積極的に対応しています。
- ・川崎市が中心となっている「KAWASAKI 地域感染制御協議会」に平成 25 年度より参加しており、地域病院との連携・協力体制を続けています。

## **予防**

当初の提案として、リハビリテーションの集約・充実、屋外リハビリスペースの確保、検診部門の強化などをあげています。

現在の取組としては、

- ・平成 26 年 5 月に健診車を導入し、将来に向けた巡回健診の体制づくりを進めています。

## **高齢者**

当初の提案として、在宅医療の強化、個室や家族スペースの確保によるターミナルケアの取組により、高齢者の安心・安全な生活の支援をあげています。

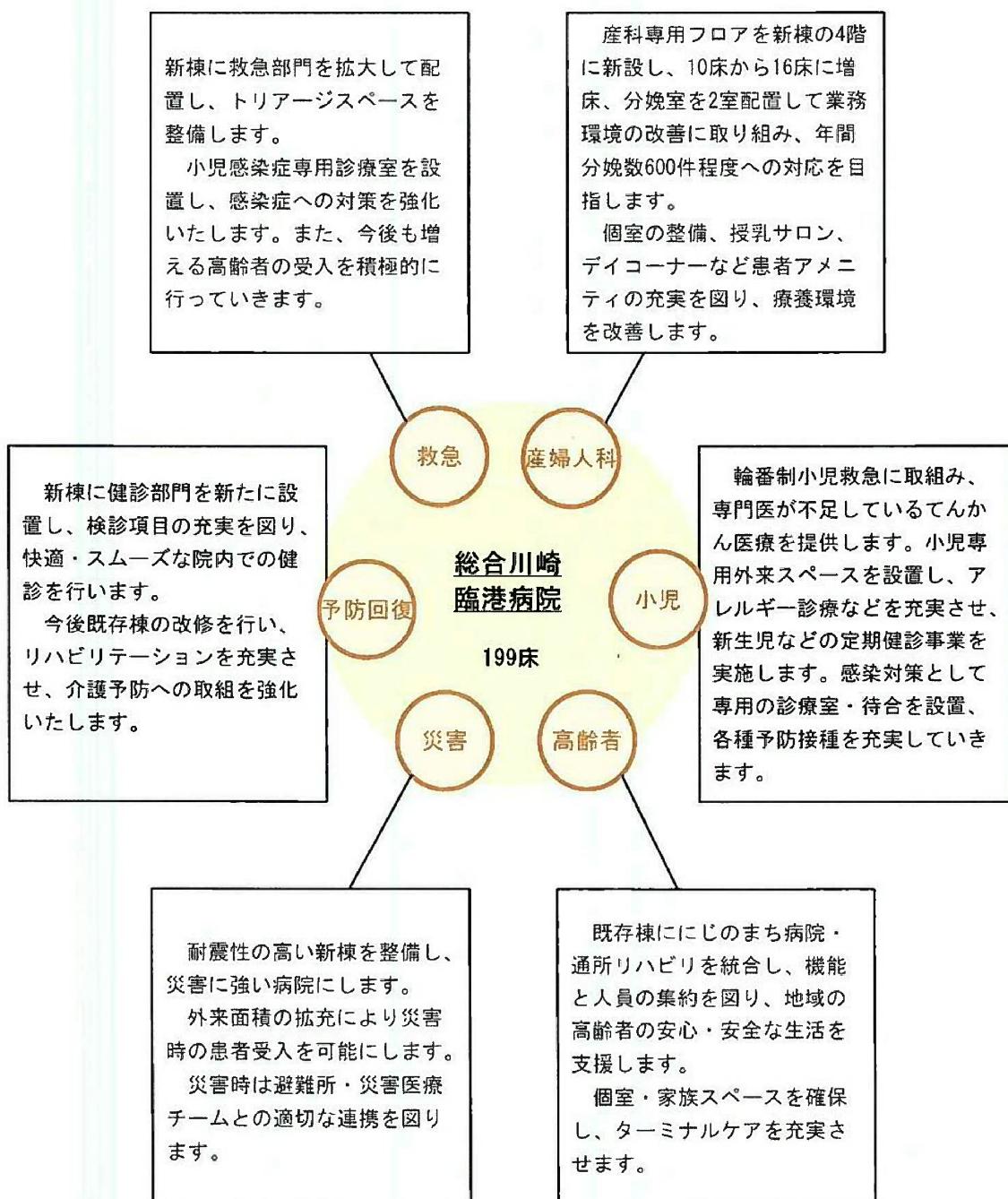
現在の取組としては、

- ・在宅医療の強化として「患者支援・医療連携センター」を創設し、(平成 25 年度) 入退院の他、施設・在宅復帰にかかる、多岐に渡る相談に対応しています。
- ・公益社団法人川崎市病院協会が実施している「あんしん見守り一時入院事業」に会員病院として継続して参加協力をしています。

## 4 新たな提案

以上の状況を踏まえ、私ども和光会は、より一層の安全な医療・介護を通じて地域貢献を提供する方策として、次のような提案をさせて頂きたいと考えます。

### ■機能整備の概要



以下に、当初の提案より進展させている内容につき補足説明致します。

#### 【救急】

- ・慢性期病床と急性期病床を一体化することで、効率的に一般病床を運用することができ、救急受入の拡大が図れます。
- ・救急車による搬送以外にも、施設入所者の急変時にも今後も積極的に受け入れていきます。

#### 【高齢者・予防医療】

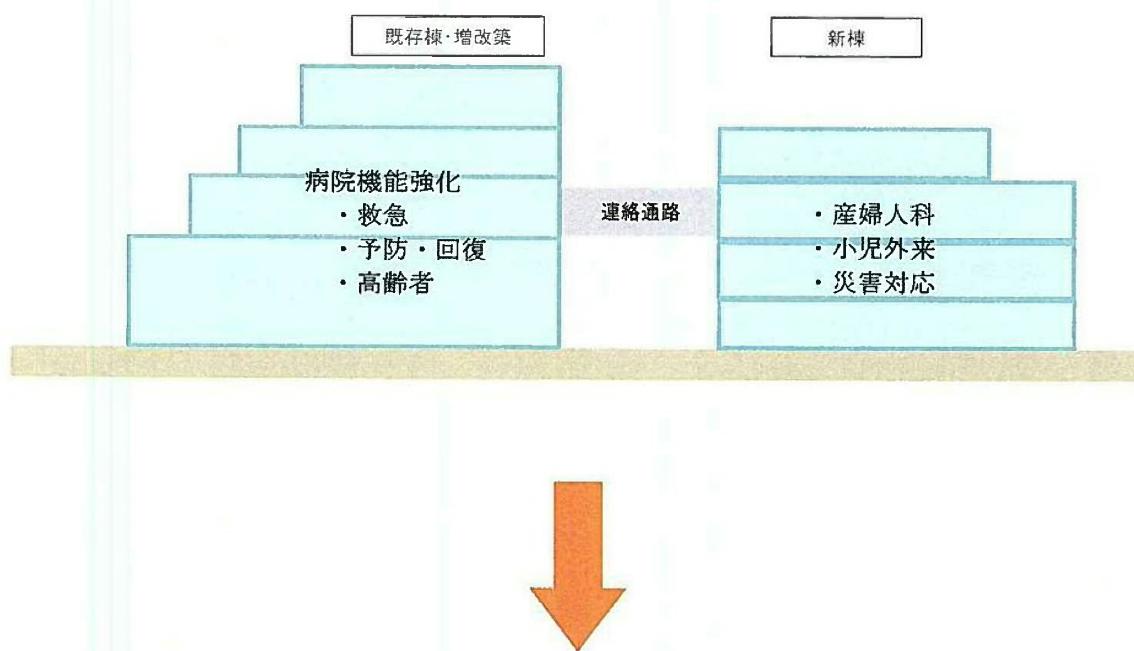
- ・新棟を建設することにより、地域に密着した病院として、在宅復帰困難な患者・急変時の在宅療養患者の受け入れ、医療と介護の連携による在宅復帰支援、リハビリテーション等に力を入れ、長期的な視点での患者一人一人に合った生活復帰を支援します。
- ・患者のコーディネート機能として、MSW（社会福祉士）、を配置した「患者支援・医療連携センター」を中心とした取組の充実を図ります。
- ・平成26年10月より、川崎市の中で先がけて「地域包括ケア病床」の認可を受けており、今後も回復期リハビリテーション病棟の機能充実を図り、医師・看護師・作業療法士などのリハビリスタッフが連携して作成するプログラムに基づくリハビリテーションを充実、強化し推進します。
- ・必要に応じて患者の自宅に「退院前訪問」を行い、住宅改修等の提案を含め、より安全・安心な在宅生活を続けて頂ける、生活復帰に向けたリハビリテーション体制の充実を引き続き図っていきます。
- ・「患者支援・医療連携センター」を中心として、患者に寄り添う一体的なケアを推進するため、近隣にある「にじのまち病院」の療養病床を統合し、医療依存度の高い比較的長期の療養が見込まれる患者にも対応します。
- ・リハビリテーション体制の強化に向け、療養病床の一部を回復期リハビリテーション病床へと移行します。
- ・地域の開業医との連携を深め、在宅医療の推進の障害となっている在宅療養患者の緊急入院について、必要性に応じ積極的な対応を図っていきます。
- ・慢性期病床と急性期病床を一体化することで、慢性期の患者が急変した際に手厚い医療を施していきます。

#### 【小児】

- ・アレルギー医療を提供します。
- ・川崎市南部地域療育センターと連携して医学的検査の協力を行います。
- ・川崎市立学校児童生徒結核健康診断精密検査を実施します。

## 追加提案に伴う施設構成の変更

### ■施設構成図 当初計画



### ■施設構成図 新たな計画



## 新たな和光会の地域貢献

総合川崎臨港病院、にじのまち病院、和光会福祉部門の各施設を統合・近隣に集約する事により、新たな和光会としての地域貢献の拡大と機能発揮を図る事が出来ます。

